

児童発達支援 知っておきたい基礎知識

平成26年度

第1回 札幌市児童発達支援研修会

I さっぽろ 児童発達支援のシステム

① 私たちと出会う前の状況

- * 知的・発達の遅れの場合 ~ 「育てにくい」「心配」な段階からの関わり
- * 肢体不自由児・染色体異常などの場合~病院から退院し“病気の赤ちゃん”としての子育て開始



障がいや遅れを「受容」できにくい段階なので、ゆるやかで垣根の低い、しかし“特別な子育て支援”が求められる。



や



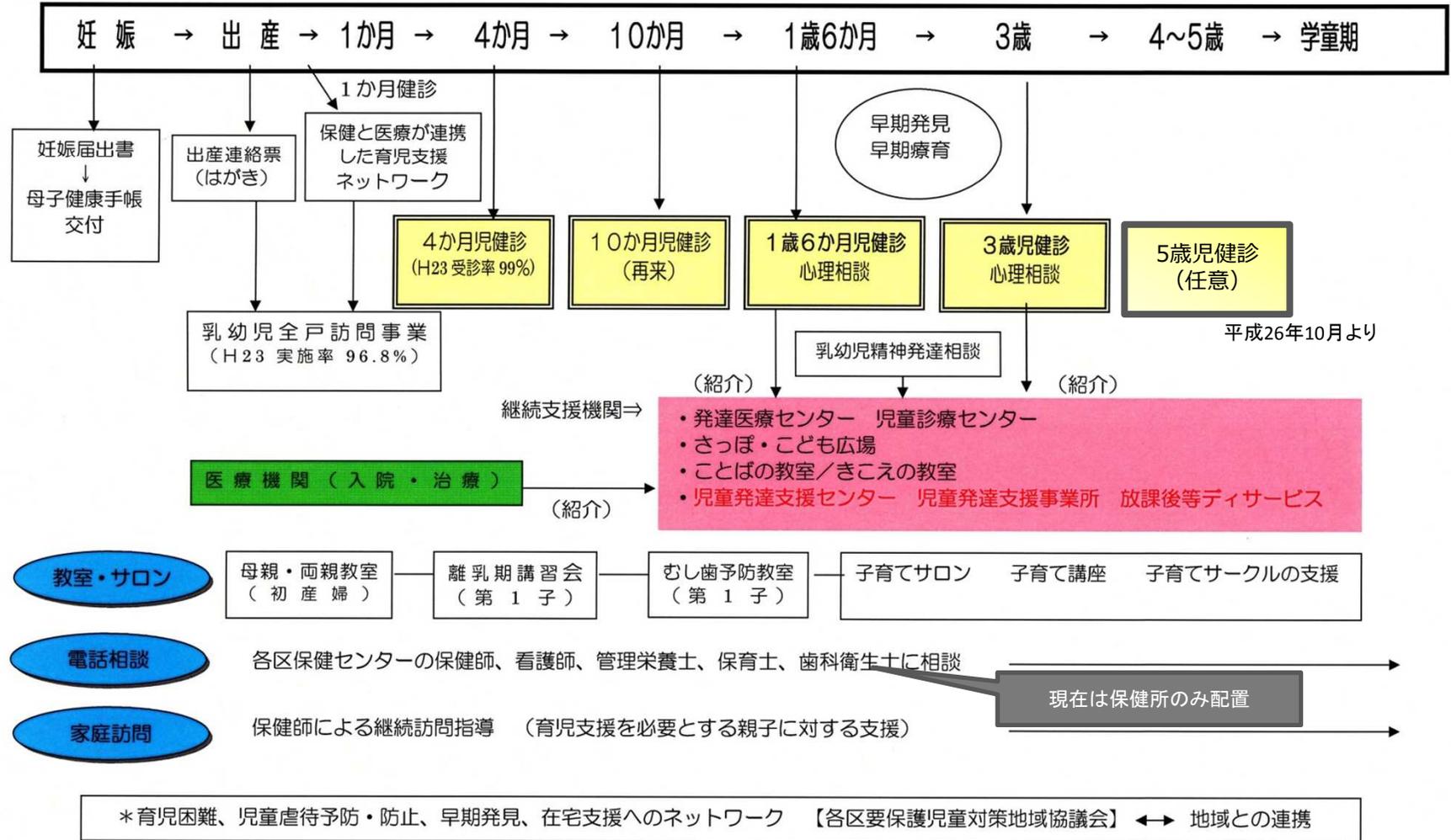
札幌市の早期療支援



札幌市の母子保健事業

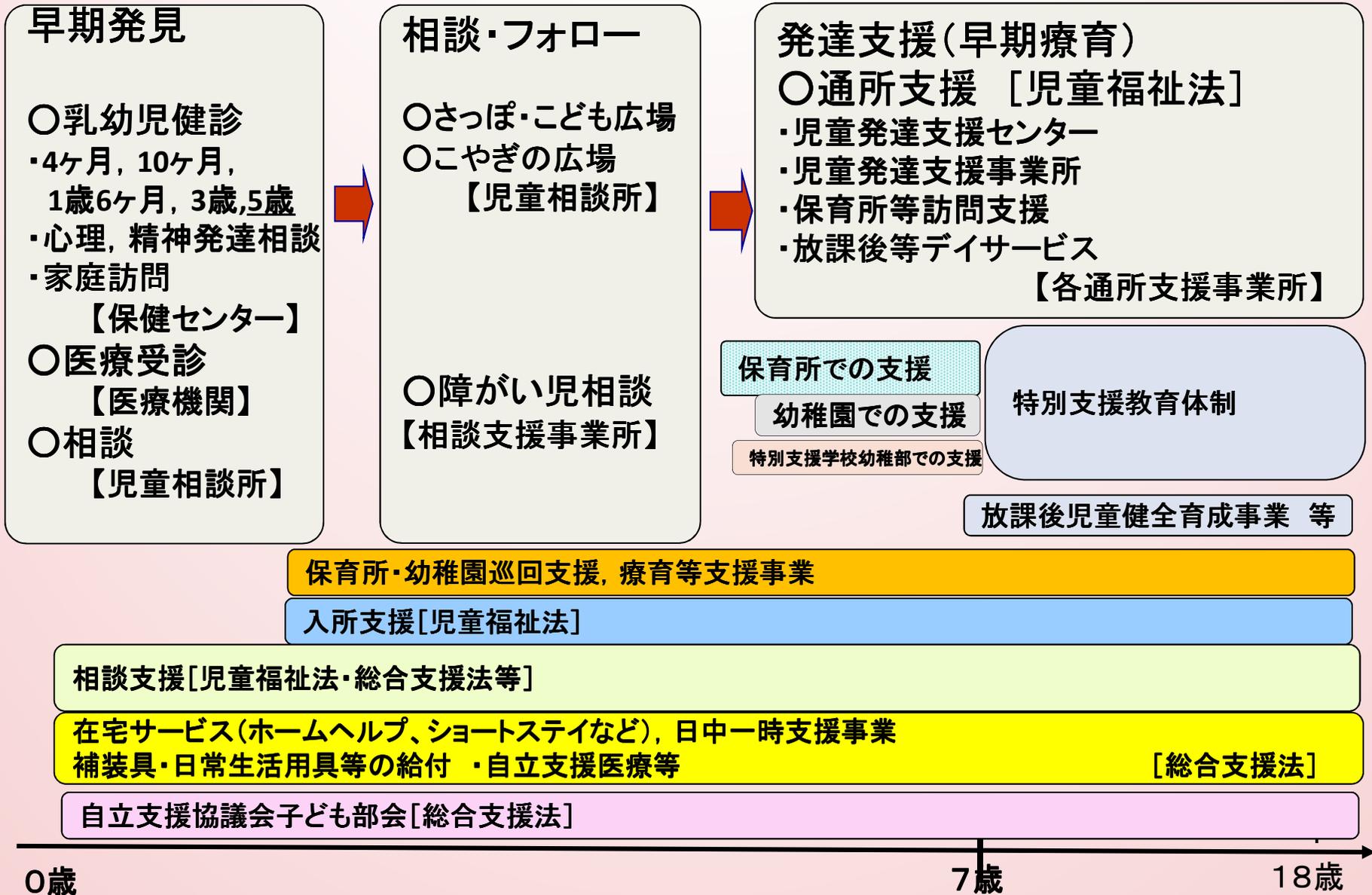
健診・相談

○対象は18歳未満の児童及びその保護者。また。母性保護の視点からの対象者



札幌市の障がいのある子どもの支援体制（早期発見から発達支援の流れ）

早期発見 → 相談 → 発達支援（発達支援・家族支援・地域支援）



Ⅱ 私たち（児童発達支援）の役割

信頼される・頼りになる

①聞き取り 受け止める

～ まずはお母さん（家族）に安心してもらうために

- ・ こどもの心配なところ
 - ・ 子育てに困っているところ
 - ・ これまでに辛かったこと
 - ・ これから期待すること
- などを聞き取る



②私（事業所）ができることを説明する

- ・ 健やかな育ちの支援
- ・ 制度的な手続きのこと
- ・ 提供するサービス内容のこと
- ・ 費用のこと
- ・ 時間や持ち物のこと
- ・ アレルギーなど禁忌事項の確認

そして事業所の特徴をわかり易く



③ こどものことを知る

アセスメントが大事！

個別支援プログラムをたてる上で欠かせないのは
アセスメント（評価）です。

①の家族からの聞き取りとともに、こどもの発達状況を把握する必要があります。

ポイント

- * 行動の様子（多動・臆病・こだわり）
- * 愛着の様子（不安な時母親を求めるなど）
- * 対人的コミュニケーションの様子
～こちらからの働きかけに対する応じ方
- * あそびの様子…どのように遊んでいるか
- * 運動の様子
～ふらつき・身体の硬or柔

④ 家族を支える…通所での役割



家庭での子育て困難

障がいの受容

将来への不安

他の家族の理解

近隣地域の理解

家庭の不安定さ（虐待のリスク）

複数の人の支え
利用できるサービス
仲間の存在



⑤色々な人や機関が関わって支える

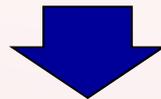
…「連携」

- * 特に幼児期は短い期間で、活動場所が変わって行く。
- * こどもの発達のニーズと保護者のニーズにもズレが出てくることが多い。
- * そのため色々な人や機関で支える事が重要。
- * 肢体不自由や医療的ケアのあるこどもでは、医療機関との連携も必要な場合もある。
- * サポートファイルさっぽろ

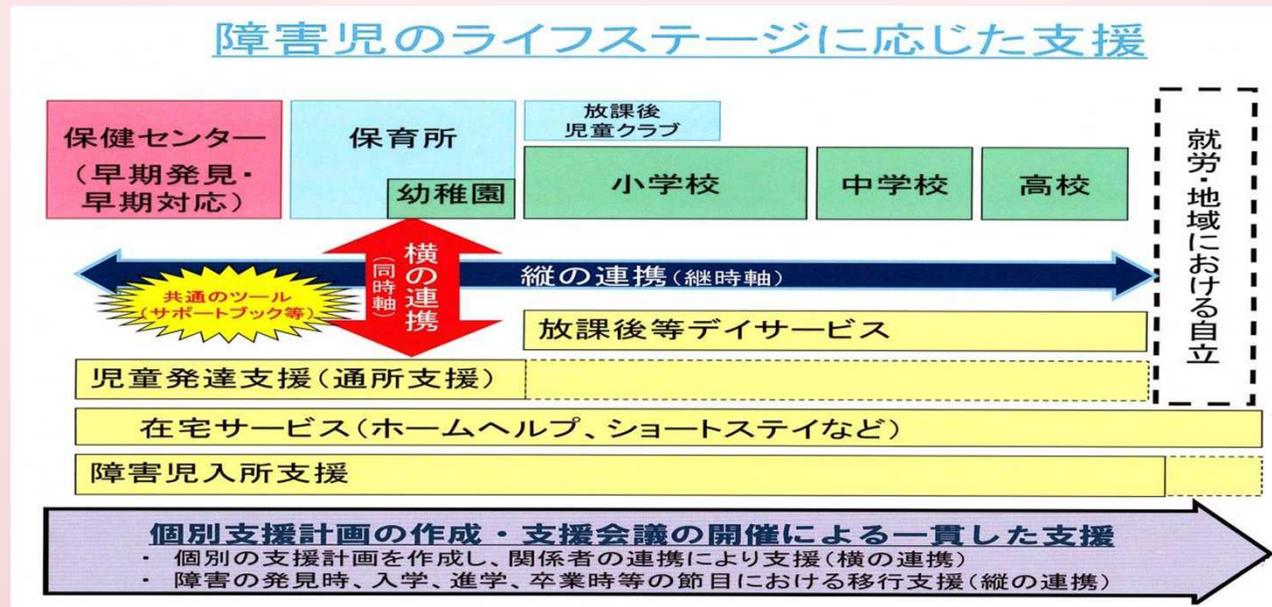


ライフステージを見通した支援の意味

- ・発達是一生涯にわたる取り組みであり、その主人公は本人(子ども)です。
- ・大人になり、「地域で自立(自律)した生活を過ごす」ためには、安心感や自己肯定感、社会的行動の獲得が大切です。



- ・発達支援は、大人になるための力を蓄える取り組みであり、ライフステージを見通した発達の基盤作りです。



地域支援としての視点から

① 「障害児相談支援」 = サービス等利用計画 作成

(児童福祉法の障害児相談支援の対象者) (個別給付)



障害児通所支援を利用するすべての障害児

※ 障害児の入所サービスについては、児童相談所が専門的な判断

② その他の支援

「障がい児等療育支援事業」 (札幌市)

委託相談支援事業所

障害福祉サービス

自立支援協議会について

□ 札幌市自立支援協議会

～ 国の施策にて「各自治体に設置」の義務



札幌市地域自立支援協議会「子ども部会」

各区の自立支援協議会

→ 区の子ども部会(現在4区にて)豊平・厚別

南・北



Ⅲ 発達支援とは？

☆ 「しょうがい」の概念の変化
医療モデル → 社会モデル

* “病気”や“治すべき事”ではなく、その特徴があることで
「しょうがい」のない人と同じにできない困難について支援するという考え



特別支援と合理的配慮
～ 対象となるこどもの姿は様々

「こどもとしての育ち」の保障

①安心できる場所

* 親からの愛情

* 衣食住の安定

* 親への愛着

* 環境

②こどもの生活

* 年齢としての経験

* 全身の感覚を豊かに育むあそび

* 強制されない時間



③こどものねがい

* 大きくなりたい

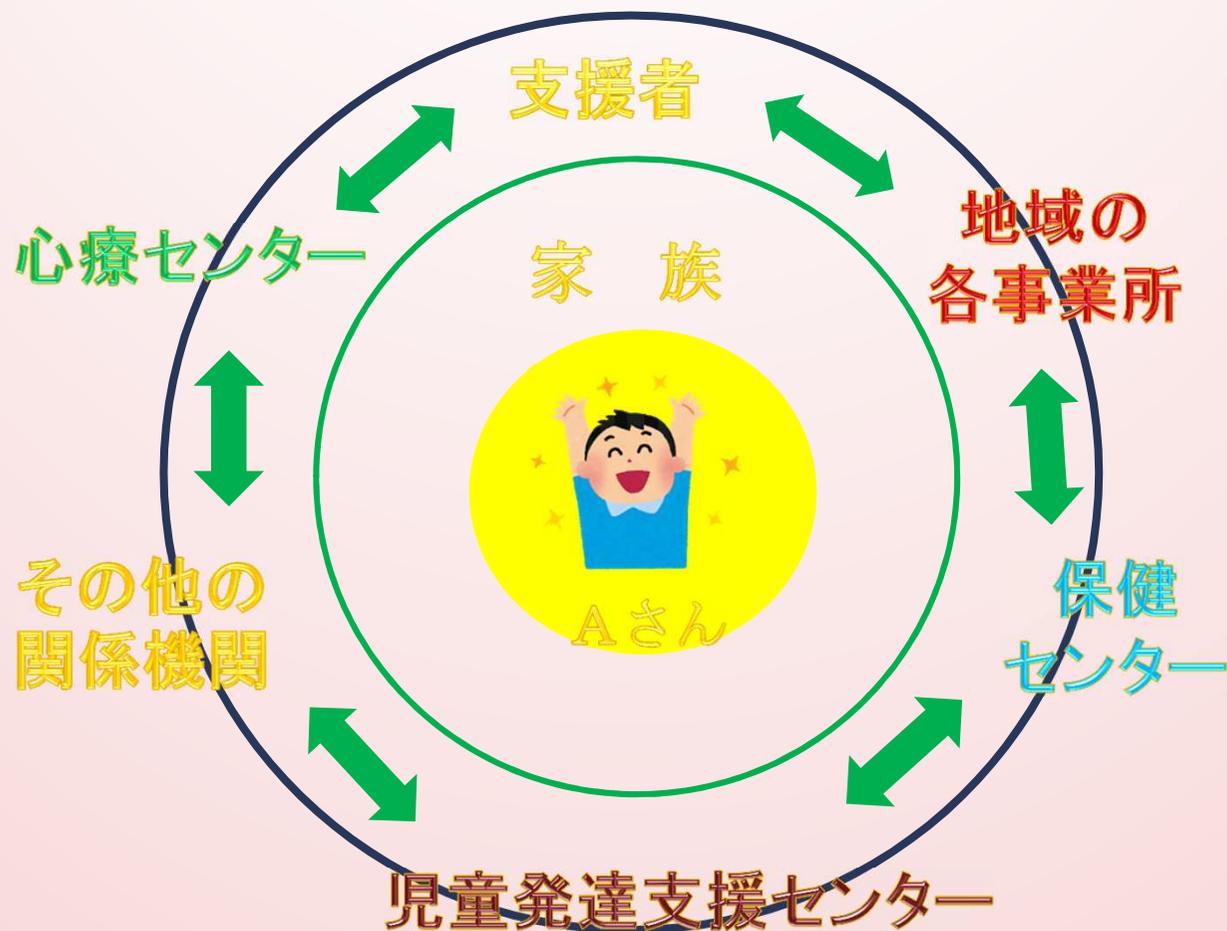
* 認められたい

* 知りたい・やってみたい・・・怖いけれど

そこには信頼できる人の支えが必要。

IV「支援する私たち」を支えるもの

① なかま作り



「支援する私たち」を支えるもの

② やりがい

自分でやってみようとしてくれたとき

成長を感じたとき

子どもたちが自分に自信が持てたとき

共感できた時

お母さん・お子さんの笑顔



「支援する私たち」を支えるもの

③ まなび

